

萩原タケ 関連記事（一部）

タケの遺品を市内で確認



明治 31 年総会で配布 の袱紗と判明

タケの遺品を所蔵していたのはタケの母方の直系のあきる野市在住者。希望により氏名等は非公表だが、このほど日本赤十字社により、詳細が判明した。

遺品は、明治 31 年に開かれた「日本赤十字社第九回総会」の記念品で参加者に配布された「袱紗（ふくさ）」で、タケも病院の職員として参加し、受け取ったものだという。袱紗には当時の同社総裁小松宮彰仁親王の妃殿下の詠歌と、漢詩の一部が書かれている。

日赤にあるタケの遺品は記章とメダルのみ。「当時のものが残っているのは大変価値がある」と、今回の遺品について話している。

＜平成 25 年 4 月 5 日号掲載＞

あきる野市五日市郷土館に常設展設置



花ぐるま

◆耐震補強工事が完了して1日からリニューアルオープンした五日市郷土館2階で、日本のナイチンゲール・萩原タケの常設展示が始まった。

◆展示はタケ（1873～1936）の人生を俯瞰するもので、小さなスペースながら年表や資料が分かりやすく整理され陳列されている。看護婦生徒となる前、19歳の初々しい姿の写真もある。

◆中でも明治三陸地震時、宮古村で救護活動した時の集合写真（左がタケ29歳）が目を引く。タケは脚絆にわらじばきで奔走したとか。タケの貴重な写真をじっくり鑑賞できるのはここタケ！（山）